

「森の作業で危機一髪」の報告

2009.1.20

囲いやまの森

1 おきた事

伐倒木の先端が、ロープを引いていた一人の直近に落下。
幸い、体には当たらず、事故は免れた。

2 状況

樹高 15.2m、胸高直径 30cm、イヌシデの枯木。
伐倒木（A）の高さ 5m位のところにロープを縛り、約 15m離れた木（B）を經由して直角方向にロープを回し、そこから 7～8mの所（C）で2人がロープを牽引していた。木は、ロープの方向からずれて、ロープを引いている人の方向に倒れた。倒れた木の先端は、引いているロープぎりぎりの所まで達し、枯枝が飛び散った。

3 直接的原因

- ① ロープを引く人の位置が、伐倒木から十分離れていなかった。
- ② 受口が伐倒方向（ロープの方向）からずれていた。

4 判断・行動の誤り

- ① 伐倒木の樹高の判断の誤り→ロープを回す木の選定の誤り
＜A～Bの距離が樹高よりやや短かいくらいだった＞
- ② ロープを引く位置の誤り
＜B～Cの距離が、A～Bの距離の半分くらいだった＞
- ③ 伐倒者が、受口の方向確認をしなかった
- ④ （C）からは受口のずれに気づいたが、大丈夫と思い、伐倒者に知らせなかった。

5 教訓

- ① ロープを回す木は、樹高の 1.5 倍程度はなれた木を選ぶこと
- ② ロープを引く位置は、ロープをかけた木よりもっと離れること。
（B～C）＝（A～B）くらい。
できれば、AとCの間に遮蔽となる木があるような位置。
- ③ 受け口が正確に伐倒目標方向に向いていることを確認すること
- ④ 問題に気づいたら、かならず作業を留めさせて、注意を喚起すること。
勝手に安易な判断をしない。
- ⑤ 今回の規模の木は、人力によるロープの牽引では、倒れる方向を制御できない。
チルホールを使用すること。